

エリアウェブ

峡東教育事務所
地域教育支援スタッフ
 TEL 0553-20-2731
 FAX 0553-20-2733



『いだてん』とオリンピックレガシー

峡東教育事務所副所長 久保田 英樹

笛吹市の古墳

NHKの大河ドラマ「いだてん～東京オリンピック囃～」を毎週楽しみに見させてもらっている。日本が初めてオリンピックに参加したストックホルムオリンピック（明治45年）から、前回の東京オリンピック（昭和39年）までの50年間を描いたドラマである。私自身は、毎週楽しく視聴させていただいているが、ドラマ自体の視聴率は大変苦戦をしているとか…。確かに、これまでの大河ドラマとは、ひと味もふた味も違いがあるように感じる。

まず時代設定が、いわゆる大河の設定には珍しい近現代。次に、大河は主人公の生涯を描くことが多いが、なんと途中で主人公が変わっていく展開。しかも教科書に載るような誰もが知っている有名人ではない（失礼）。尚且つ、小気味よい笑いが随所に盛り込まれるシナリオ。なるほど、今までの大河ファンからすると、この大河の変化についていくには、少し頭を柔らかくする必要があるのかもしれない。斯く言う私も、第1話を視聴して以降、数話分はビデオに録り溜めておいたが、それを見ようか悩んでいた時期もあった。しかしその後、見続けはじめると、連続ドラマの常というか、知らず知らずに次回を見たくなり、現在に至っている。

ところで、ドラマの内容であるが、大河ドラマの斬新な変化とは裏腹に、近代オリンピックを表のテーマとしながら、その時代背景の中で「スポーツの市民権確立」「女性の社会参画」「スポーツ用具の進化」「震災復興とスポーツ」「スポーツと政治」「報道とスポーツ」など、その折々にしっかりと硬派な裏テーマが織り交ぜられ、見続けていると、脚本家の宮藤官九郎さんが、おそらく伝えようとしているのではないかと思われる「人間の営みと社会の健全な成熟とは」という命題が垣間見えてくるような気がする。まだドラマは中途であるので、確たる事が言えるものではないが、制作統括の訓覇圭さんは試写会において「史実に基づいた事実が意外に多く、事実とは何かを考える機会にもなる。」と語ったと聞いている。

さて、来年2020年はいよいよ東京で55年ぶりにオリンピック・パラリンピック（以下オリパラ）が開催される。大河ドラマで描かれる予定の、前回の東京大会から更に55年が経過し、オリパラは参加予定の国・地域は205、参加予定選手12,000人以上、開催期間中の観客動員数は1,000万人が予想される世界最大級のビックイベントに成長している。近年は、オリパラを受け入れる都市や国では、この大きなイベントを、開催

カラー版をご覧ください

『エリアウェブ』はカラー版を峡東教育事務所のホームページで掲載中です。右のQRコードをスマホのカメラから読み取り、ホームページを開いて下さい。是非ご覧ください。



エリアウェブ
ホームページ

ホームページアドレス

<https://www.pref.yamanashi.jp/kyoiku-hym/chiiki/areaweb.html>

ご意見をお寄せください

◎『エリアウェブ』のご意見・ご感想・取材情報をスタッフ一同お待ちしております。右のQRコードをスマホのカメラから読み取り、メールでご連絡いただくか、表紙右上の連絡先にご連絡下さい。



E-mail アドレス

kyoiku-hym@pref.yamanashi.lg.jp

お問い合わせ

時期のみ盛り上がる一過性のものとするのではなく、オリパラを契機として、未来に有形・無形の遺産（レガシー）を創出することを重要視するようになってきている。

前回の東京大会でも、国立競技場や首都高速道路、新幹線などのハード面でのレガシーは、その後の日本の高度経済成長を下支えし、体育の日やスポーツ少年団、世界で初めてのオリンピック教育（学習）などのソフト面でのレガシーは、今日のスポーツ振興や社会体育などの枠組みを社会に広く浸透させた。前回大会から半世紀以上が経過した今回の大会では、日本においてはハードなインフラはほぼ整い、社会も成熟してきている中で、目指すレガシーはソフト面が中心となってくる。スポーツ庁では、ソフトレガシーを作る一環として、平成26年度からオリパラ教育を全国で推進するための事業を実施している。そのオリパラ教育では、オリパラの理念（オリンピズム）であるオリンピックの3つの価値「卓越」「友情」「敬意/尊重」とパラリンピックの4つの価値「勇気」「決断」「平等」「鼓舞」を体験的に教えていくことを中核に位置付けている。

今回のオリパラを契機として、オリパラ教育を通じて、次代を担う若者や子供たちが、7つの価値を体験的に身に付け、国際的な視野を持ち、平和で豊かな社会を実現する資質・能力を育てていくことは、ソフトレガシーの創出として大変意義深いことだと考える。

蛇足だが、日本のオリンピックムーブメントを開いた嘉納治五郎や近代オリンピックの父クーベルタン男爵も、オリンピックを通じてこれらの価値が広まることを願っていたという史実を、「いってん〜東京オリンピック〜」は、ドラマの中でそこはかとなく伝えている。

スタントマンによる交通安全教室

山梨市立山梨北中学校

9月27日（金）にJAフルーツ山梨主催の「スタントマンによる疑似体験型自転車交通安全教室」が日下部警察署の協力のもとで開催されました。山梨北中学校は、自転車安全利用推進校として交通事故ゼロを目標に掲げています。教室の開催に先立って、古屋校長先生から、「実演を自分事のようにしっかり見てください。そして交通安全に対する意識を高めてください。」と話がありました。今回、スケアードストレート（恐怖疑似体験）による交通安全教室でスタントの実演をしたのはスパードライバーズという団体です。生徒たちは、まずダ



ミー人形を乗せた自転車に自動車が衝突し、自転車とダミー人形が跳ね飛ばされる場面を見て事故の恐ろしさを疑似体験しました。他にも傘差し運転、自転車の並列走行、スマホを見ながらやヘッドホンで音楽を聴きながらの運転、内輪差による巻き込みと次々と再現される場面に危険性を再認識することができました。教室全体を通して、司会者の質問にも手を挙げて元気よく答えたり、進んで体験しようとするなど生徒の積極的な姿勢が印象的でした。「青だけど車は私見てるかな」車が来たら運転手と目と目を合わせてアイコンタクトを忘れず交通事故ゼロを目指しましょう。

選挙について学ぶ出前授業

甲州市立奥野田小学校

台風一過で残暑厳しい10月4日（金）に奥野田小学校の6年生26名に山梨県や甲州市の選挙管理委員会による明るい選挙出前授業が実施されました。

授業では、まず山梨県選挙管理委員会の担当者から「80歳までに何回投票に行くか。選挙権年齢が18歳となったが、有権者数はどのくらい増えたか。」などの質問があり、児童たちは元気に答えていました。選挙権年齢が18歳になったことに関しては、「若い人がなかなか選挙に行ってもらえない。皆さんは18歳になったら選挙に行ってください。」と呼びかけていました。次に、甲州市選挙管理委員会の担当者から、甲州市の選挙のスケジュールや投票所のような、選挙に行くときの心構えなどの説明を受けた後、4人の候補者の用地の活用についての選挙公約を読んで模擬投票を行いました。開票所で使われる自動分類機や票数を数える機械も会場に置かれ、実際に稼働する状況を見てその速さに驚いてい



ました。



文部科学大臣表彰！！

笛吹市立石和東小学校

笛吹市立石和東小学校は読書活動に力を入れています。卒業生には直木賞作家、辻村深月さんがいます。今年度、これまでの実績が認められ「子どもの読書活動優秀実践校」として文部科学大臣表彰を受賞しました。実際に10月2日（水）の朝に実施された「なかよし読書」では、4年生が1年生に、5年生が3年生に、6年生が2年生にというように、上級生から下級生への読み聞かせの場面を見せていただきました。どの教室でも、上級生1人と下級生1～2人がグループを作って、上級生が音読し、それを下級生が興味深く聞いていました。10分間という時間の中で2～3冊読むグループもありました。児童全員が集中して読書活動に取り組む姿が印象的でした。



どの教室でも、上級生1人と下級生1～2人がグループを作って、上級生が音読し、それを下級生が興味深く聞いていました。10分間という時間の中で2～3冊読むグループもありました。児童全員が集中して読書活動に取り組む姿が印象的でした。

環境大臣賞を受賞！！

笛吹市立富士見小学校



環境省では、毎年6月の環境月間にあわせて地域環境保全及び地域環境美化に関して顕著な功績があった者または団体に対して環境大臣による表彰を行っています。富士見小学校は野菜作り活動、ゴミの分別活動、花いっぱい活動、節水・節電などの環境整備活動に長年取り組んでおり、この度これらの活動が評価され、「地球環境美化功労者」として環境大臣賞を受賞しました。



その活動の1つである栽培委員会による花の移植が10月7日（月）の放課後行われました。5、6年生11人が玄関近くの花壇に集まり、笛吹市からいただいたスノーボール、ピオラ、パンジーの花を色合いなども考えながらひとつひとつ丁寧に並べ植えていきました。児童からは「楽しい」という声が聞かれたり、積極的に作業する姿が見られ、和やかな時間が流れていました。

今石器人による講演会

甲州市立松里小学校

自らを今石器人と名乗る雨宮国広さんの講演会が、9月10日（火）に甲州市立松里小学校で6年生を対象に開催されました。雨宮さんは、約3万年前に日本人の先祖が大陸からやってきた航海を再現するために、今年の7月に国立科学博物館などのプロジェクトチームの一員として、台湾から与那国島まで丸木舟で渡ることに成功した、その丸木舟を製作した方です。講演会では、まず雨宮さんが、自身の今の夢、子どもの頃の夢について話したり、児童にも自分の夢について問いかけたりしました。また大工としての経験から、「人類は道具を工夫して物を作ることができたことが他の動物との違いだが、地球上に誕生して以来、これまで自然界からたくさんの恵みを受けて暮らしてきた。その間に、使用する道具が石おのから鉄、さらに機械へと変わってきた。それによって、戦争や温暖化、砂漠化、熱帯雨林の破壊といった環境問題など、人類が手に負えないものを作り出してしまった。今こそ立ち止まって見直す時だ。」と子どもたちに訴えました。そして、「じゃあ、持続可能な世の中を作るのに、何の道具を使うか？」の問いかけに、児童たちは「石おの」と答えました。正解と思いましたが、以外にも雨宮さんの答えは、「どの道具を使ってもいい。すべてのものを思いやる優しい心を持っていること、自分らしく人間らしく生きることが大切だ。」と語りかけていました。その後、プールへ集まり、雨宮さんが実際に石おので作成した丸木舟に乗る体験をしました。初めて乗る丸木舟は、まっすぐ進まず操るのに苦労していましたが、児童全員が笑顔でオールを漕いでいる姿が印象的でした。児童からは「舟が思った方向に進まず思ったより難しい。」とか「結構体力がいる。」といった感想も聞かれ、初めての体験に、児童たちのワクワクした感情が伝わってくる行事でした。



第5回桃翔祭

山梨県立高等支援学校桃花台学園



焼きそばやホットドック、射的等いろいろな模擬店が開かれ、多くの一般来校者で賑わっていました。開祭式で、小佐野校長先生が「自分のことばかりでなく、周りの人のことも考える桃翔祭にしましょう。」と言った言葉を体現できた行事となりました。

高等支援学校桃花台学園において9月20日（金）、21（土）に第5回桃翔祭が行われました。初日の体育祭は晴天にも恵まれ、生徒たちは青、黄、橙、ピンクの学年を超えた縦割りグループで、集団ダンス、台風の目、綱引き等の競技に一生懸命がんばっていました。用具の準備、片付けを手早く行ったり、選手を応援する姿にも一体感があり、すばらしい体育祭となりました。翌日の文化祭では、午前中は太鼓部、合唱部、有志の発表等が行われ、生徒たちは日頃の成果を一生懸命披露していました。午後は、



第50回運動会の開催

山梨県立ろう学校

10月5日（土）県立ろう学校で「令和元年!!初の優勝目指せ!!」のテーマの元、第50回運動会が盛大に開催されました。「コロコロ ドキッ♥」では、小中高の児童生徒が2人一組で2本の棒でボールを挟んで走り、そのボールを転がして的に当てると校長先生、教頭先生の顔が出るという競技で、的にボールが当たると、児童生徒たちはガッツポーズを決めていました。幼稚部の「リュウソウジャー ちきゅうを まもれ!!」は、長老に扮した校長先生から剣を受け取り、箱を積んで作った敵を倒すという競技で、幼児たちは一生懸命に敵に向かって剣を振っていました。また、「玉入れホイホイ!」で白組がすべての玉をかごに入れる離れ業をやっていると、「綱引き」では紅組が強さを見せるなど、白熱した場面も見られました。10



月とは思えないほど気温が高い中でしたが、幼児、児童、生徒たちは、楽しそうに走ったり、演舞、応援合戦に一生懸命取り組んでいました。また、山梨高校、身延山高校、春日居中学校、晴風園といった交流のある学校や施設から生徒、関係者も参加し、サイコロの目によって走る距離が変わる「出たとこ勝負!!」や「フォークダンス」で汗を流して、楽しい一日を過ごしました。

小中学校音楽発表会



笛吹市は10月23日（水）石和スコレーセンターで、東山梨地域は10月24日（木）甲州市民文化会館で、小中学校合同の音楽発表会が開催されました。小学校は合唱が中心でしたが、リコーダーやピアノ、アコーディオンの演奏を交えたり振り付けをするなど各校工夫を凝らしており、小学生とは思えないピアノの伴奏と美しいハーモニーが心に響きました。また、地域の伝統である太鼓の演奏を披露する学校もあり、その迫力は圧巻でした。中学校は、合唱と吹奏楽部による演奏が披露されました。中学生になると小学生とは違い、歌声や楽器の演奏にも力強さがあり、その豊かな表現力に小学生の児童たちも聞き入っていました。各学校とも、児童生徒の指揮者を見る目は真剣で、一生懸命歌ったり演奏する姿が印象的でした。会場が音楽で満ちあふれ、芸術の秋にふさわしい音楽会となりました。



日下部地区中学生防犯・交通弁論大会

8月27日(火)に松里中学校において、日下部地区中学生防犯交通弁論大会が行われました。開会行事では、日下部警察署の矢野智署長が「日頃の成果を十分に発揮してください。」と8名の中学生弁士を激励しました。また、会場校の松里中学校の吉澤直樹校長は、「犯罪や事故から身を守りましょう。」と生徒たちに呼びかけました。引き続いて行われた防犯弁論では、「あいさつをすることやSNSが盛んに使われている中で、顔を合わせて伝えることが大切で、人とのコミュニケーションを取っていくことが犯罪の防止にもつながる。」といった自分自身の取り組みを熱く語っていました。交通弁論では、自身や家族の交通事故の経験、高齢ドライバーの事故によって幼い命が奪われたり、あおり運転の危険性など最近の話題にも触れながら、交通事故の悲惨さや自分自身も気をつけることを訴えていました。



防犯弁論の部 最優秀賞	交通弁論の部 最優秀賞
松里中学校2年生 中村友香里さん 論題：「思いを伝える」	山梨北中学校3年生 富塚遥斗さん 論題：「予期せぬところに潜む危険」

笛吹警察署管内中学生交通・防犯弁論大会

8月29日(木)に笛吹市スコレーセンターにおいて、笛吹警察署管内中学生交通・防犯弁論大会が行われました。開会行事では、笛吹警察署の平井親一署長が「全国的にSNSによるいじめ、自殺が問題になっている。笛吹署管内でも、青少年による窃盗や器物損壊、自転車による交通事故が起きている。この弁論大会を機に安全や健全育成に対する意識を高めてほしい。」と呼びかけました。また、来賓の山下政樹笛吹市長からは、「この大会が社会全体への問いかけとなり、社会全体の健全育成につながるよう期待しています。」とあいさつがありました。引き続いて行われた交通弁論では、「事故は誰にでも起こりうる。被害者にもなるし加害者にもなる。交通ルールを守るという意識を高めることや自転車を乗るときもしっかりヘルメットをかぶることが大切だ。」と自身の交通事故の経験を踏まえて聴衆に訴えていました。防犯弁論では、「SNSは便利だが、使い方間違えると人の人生を狂わせてしまう。使い方を直しましょう。また、地域の人と交流し関わりを持つことが犯罪を防ぐことにつながる。」など中学生の目線で自分にできることに取り組んでいる経験を訴えていました。



交通弁論の部 最優秀賞	防犯弁論の部 最優秀賞
石和中学校2年生 小澤彩伽さん 論題：「私たちがするべき第一の行動」	一宮中学校3年生 雨宮麻夏さん 論題：「見えない顔」

中学校英語暗唱大会

東山梨地区では10月15日(火)山梨市の夢わーく山梨に8つの中学校から、また笛吹市では10月24日(木)に笛吹市教育会館に5つの中学校から、それぞれ2年生、3年生の代表が集まり、中学校英語暗唱大会が開催されました。課題の英文を憶え、話すという内容でしたが、緊張感の漂うなか、しっかりと一語



一語に気持ちを込めて熱弁をふるっていました。どの生徒も物怖じせず堂々と話す姿が印象的でした。審査員の先生の「人前でしかも英語で話すということは素晴らしい経験です。」といった言葉からも、発表を終えた生徒たちからは一回り成長した頼もしさを感じました。各学年の優勝者は以下の通りです。



	東山梨地区	笛吹地区
3年生	金井優汰さん(勝沼中学校)	鈴木咲楽さん(春日居中学校)
2年生	田邊一葉さん(塩山北中学校)	内木 希さん(春日居中学校)

座禅体験

甲州市立大和中学校

9月20日(金)に大和中学校の2年生8名が天目山栖雲寺で座禅体験を行いました。栖雲寺は1348年に武田信満によって創建され、武田家の菩提寺として繁栄した寺です。当日、生徒たちは、住職である鎌倉長建寺の青柳真元氏から、



石造りの庭園の説明や寺の歴史について講話を受けました。それから実際に座禅を体験しました。住職が警策を持って歩くと本堂にはピンと空気が張り詰め緊張感が伝わってきました。最後に全員で本堂の清掃をしました。まだ残暑も厳しい日々が続く中でしたが、標高1050mの栖雲寺には涼やかな風が流れ秋の気配が感じられました。



峡東地域内中学校新人体育大会

笛吹市中学校新人体育大会・東山梨中学校新人体育大会が10月5日(土)・9日(水)・14日(月)に開催され、1・2年生による新チームで初めての公式戦となりました。各会場では、先輩の築き上げた成績を追い越そうとする気迫が伝わってきました。また、控えの選手が自分たちのチームを一丸となって応援する姿もすばらしく、生徒たちのこれからの成長が楽しみです。各種目の優勝校は次の通りです。



★ 笛吹市 ★

★ 東山梨 ★

	野 球	浅川中	Aパート 山梨北中 Bパート 山梨南中	
	サッカー	石和中	山梨北中	
	ソフトボール	石和中	山梨北中	
	バスケットボール	一宮中	塩山中	
	バレーボール	御坂中	山梨南中	
	卓球	御坂中	山梨北中	
	バドミントン	浅川中	山梨南中	
	男子	春日居中	山梨北中	
	女子	御坂中	山梨南中	
	男子	石和中	山梨北中	
	女子	石和中	塩山中	
	男子	一宮中	勝沼中	
	女子	浅川中	塩山中	
	男子	—	山梨北中	
	女子	—	塩山中	
	男子	—	塩山中(個人)	
	女子	—	勝沼中(個人)	
	男子個人	石和中	—	
	女子個人	石和中	—	
	女子個人	石和中	—	
	男子個人	石和中	—	
	女子個人	石和中	—	
	男子個人	石和中	—	
	女子個人	石和中	—	
	男子個人	石和中	—	
	女子個人	石和中	—	
	男子個人	石和中	—	
	女子個人	石和中	—	
	男子個人	石和中	—	
	女子個人	石和中	—	
	男子個人	石和中	—	
	女子個人	石和中	—	
	男子個人	石和中	—	
	女子個人	石和中	—	
	男子個人	石和中	—	
	女子個人	石和中	—	
	男子個人	石和中	—	
	女子個人	石和中	—	
	男子個人	石和中	—	
	女子個人	石和中	—	
	男子個人	石和中	—	
	女子個人	石和中	—	
	男子個人	石和中	—	
	女子個人	石和中	—	
	男子個人	石和中	—	
	女子個人	石和中	—	
	男子個人	石和中	—	
	女子個人	石和中	—	
	男子個人	石和中	—	
	女子個人	石和中	—	
	男子個人	石和中	—	
	女子個人	石和中	—	
	男子個人	石和中	—	
	女子個人	石和中	—	
	男子個人	石和中	—	
	女子個人	石和中	—	
	男子個人	石和中	—	
	女子個人	石和中	—	
	男子個人	石和中	—	
	女子個人	石和中	—	
	男子個人	石和中	—	
	女子個人	石和中	—	
	男子個人	石和中	—	
	女子個人	石和中	—	
	男子個人	石和中	—	
	女子個人	石和中	—	
	男子個人	石和中	—	
	女子個人	石和中	—	
	男子個人	石和中	—	
	女子個人	石和中	—	
	男子個人	石和中	—	
	女子個人	石和中	—	
	男子個人	石和中	—	
	女子個人	石和中	—	
	男子個人	石和中	—	
	女子個人	石和中	—	
	男子個人	石和中	—	
	女子個人	石和中	—	
	男子個人	石和中	—	
	女子個人	石和中	—	
	男子個人	石和中	—	
	女子個人	石和中	—	
	男子個人	石和中	—	
	女子個人	石和中	—	
	男子個人	石和中	—	
	女子個人	石和中	—	
	男子個人	石和中	—	
	女子個人	石和中	—	
	男子個人	石和中	—	
	女子個人	石和中	—	
	男子個人	石和中	—	
	女子個人	石和中	—	
	男子個人	石和中	—	
	女子個人	石和中	—	
	男子個人	石和中	—	
	女子個人	石和中	—	
	男子個人	石和中	—	
	女子個人	石和中	—	
	男子個人	石和中	—	
	女子個人	石和中	—	
	男子個人	石和中	—	
	女子個人	石和中	—	
	男子個人	石和中	—	
	女子個人	石和中	—	
	男子個人	石和中	—	
	女子個人	石和中	—	
	男子個人	石和中	—	
	女子個人	石和中	—	
	男子個人	石和中	—	
	女子個人	石和中	—	
	男子個人	石和中	—	
	女子個人	石和中	—	
	男子個人	石和中	—	
	女子個人	石和中	—	
	男子個人	石和中	—	
	女子個人	石和中	—	
	男子個人	石和中	—	
	女子個人	石和中	—	
	男子個人	石和中	—	